

第3章

「命」の授業，啓発講話(活動・体験)の記録

ねらい 過去の災害の教訓に学び，備える

- ◎過去の災害からの教訓や，防災分野の有識者の知見から学ぶ
- ◎「命」の授業，啓発講話(活動・体験)の記録を共有する
- ◎自助・共助の意識と行動様式を啓発する



石巻市防災士協議会 武井 友佑氏による防災啓発講話 (第八中学校)

3-1 第一小学校

◆ 「命」の授業

～じしん、こんなとき、どうするの？～

第2学年

地震が発生したときに、どのようにして身を守るのか学習しました。

まず初めに、東日本大震災で被害を受けた場所の写真を見た後、地震発生時の危険と身の守り方について考えました。

- ① 通学路にいるときに地震が起きたら、どう行動するのか。
- ② 自分の家にいるときに地震が起きたら、どう行動するのか。
- ③ 教室にいるときに地震が起きたら、どう行動するのか。
- ④ スーパーマーケットにいるときに地震が起きたら、どう行動するのか。



子どもたちは、どの場面でも、自分の頭を守ることや危険なところから早く離れることが大切だと学びました。

地震はいつどこで起きるか分かりません。いざというときに、子どもたちが安全な避難行動がとれるよう、今後も避難訓練をはじめ、機会をとらえて指導していきます。

◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「地震発生時の身の守り方」

講師 第一小学校 副校長 飯島 慶裕 氏

第6学年

6年生は、副校長を講師として、防災講話を行いました。阪神淡路大震災では、多くの建物が損壊や倒壊したため、建物の耐震化を進めるとともに、地震の揺れを逃がす免震構造の建物も増えてきているという話がありました。その後、起震車を使って阪神淡路大震災における震度7の同じ揺れと、免震構造の揺れの違いを体験しました。

震度7の揺れでは手すりにつかまって自分の体を支えるのが精いっぱいでもできませんが、免震構造の建物では、震度3程度に揺れが小さくなっていることが分かりました。副校長は、建物だけでなく、インフラを含めた地震に強いまちづくりをしていくことが大切で、自分たちの町を守るためにも防災意識をもってほしいと子どもたちに伝えました。子どもたちは、自分ができることを増やそうと意識を高めました。



3-2 第二小学校

◆ 「命」の授業

もし、大地震が起きたら ーどのような行動をすればよいかー

全学年

各学年に合わせて、「大地震が起きた際の行動について」考える学習を行いました。

地震の様子を映像で学習し、自分ができる行動となすべき行動について、「防災ノートとプリントに書き込み、話し合い、まとめていく学習」や、避難所生活の様子を映像で学習し、「必要となるものや、なすべき行動について話し合い、考えていく学習」を行いました。

地震が起きた際の自分の身を守る行動の『自助』とお互いに助け合う『共助』が大切であることだけでなく、避難所等、公の場所での行動も大切であることを学び、いざという時のための意識を高めることができました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「地震が起きた時の行動」

講師 調布消防署員

第4～6学年

調布消防署員による、リモート防災学習と避難訓練後の指導・講評のなかで、「地震が起きた際の避難行動について」たくさんのお話をいただきました。

高学年対象のリモート防災教育では、近年発生したそれぞれの大地震の特徴から、『地震が起きた時の行動』について教えていただきました。「自分は大丈夫。」ではなく、「防災行動力」を身に付けることが大切である。「地震が起きた際のとっさの行動」として、まず、自分の身を守ることが一番大切である。その次に、周りのことを考えて行動することが大事である。火の始末や怪我の有無等、隣近所の様子を必ず確認するのが大切であり、高学年として行動できることが大切であることを教えていただきました。

避難訓練の講評では、全学年に『自分の命を守ることが一番大切である。しかし、友達や家族の命を守る行動を心掛けることが大切である』というお話をいただきました。災害のときに互いに助け合う気持ちを高めることができました。



3-3 第三小学校

◆ 「命」の授業

避難所について考えよう

第6学年

6年生では、避難所について考える学習をしました。始めに避難所の生活と普段の自宅での生活の違いを予想し、「周りとの協力しなければならない。」「たくさんの制約があり、自分の生活リズムが崩れる。」など、集団生活になると日常的なことができなくなるという課題を共有しました。

避難所に対して様々な考えが出るなか、熊本地震で中学生がボランティア活動を通して、避難所にいる人達に元気や勇気を与えている姿を知り、「避難所の生活において自分たちにできることがあるのでは？」と課題意識をもって学習を進めました。学級での話し合いでは、多様な考えに触れることができ、避難所生活での「共助」について考えを深めることができました。

子どもたちの振り返りでは、「僕たちが避難所で皆の役に立てることはいっぱいあることが分かった。」「もし避難所生活になった時、周りの人を元気づけられるよう日頃から気持ちの良い挨拶を心掛けていきたい。」と今の自分にできることは何か、一人一人が自分事として捉えることができました。この「命」の授業を通して学んだことをいつか起こるかもしれない災害時に生かしていってくれることを願っています。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「自分の命は自分で守ろう！そして、身近な人を助けよう！」

講師 警視庁警備部 防災対策課 地域防災係長 山中 義之 氏 第3～6学年



調布警察署の方々を講師にお迎えし、「自分の命を守る」というテーマで3～6年生に向けて防災啓発講話を実施しました。「なぜ、自分の命を自分で守らなければならないのか。」という問いから始まり、「公助だけではたくさんの人の手助けをすることができないからです。」とお話してくださいました。

具体的な例として「阪神淡路大震災」では、地震によって倒れた家や家具の下敷きになって生き埋めや閉じ込められた時、救助隊などの「公助」によって助けられた命が1.7%だった一方で、自分や家族、地域の方々などの「自助」「共助」によって助けられた命は97.5%という結果でした。だからこそ大きな災害が起きた場合は、たくさんの方が助け合い、協力して合って生き抜かなければならないことを強く子どもたちに伝えていました。

地震だけではなく、台風や集中豪雨による急な川の増水、土砂災害の場合はどうしたらよいのかを映像を通して確認しました。「様々な災害時には、ハザードマップで危険な地域を知る、避難場所までのルート確認や道具の準備、避難情報をチェックするなど、状況に合わせた判断を取ることが大切です。」とお話していただき、「自助」について考えを深めることができました。

地震などの自然災害が多い日本だからこそ、防災教育をしっかりと行っていく重要性を改めて感じました。自分や周りの命を守るという目的意識をもちながら、一つ一つの訓練を大切に、防災意識をさらに高めていけるようにしていきたいと思っています。

3-4 八雲台小学校

◆ 「命」の授業

3.11を忘れない ～どのような備えをすればよいか考えよう～

第6学年

東日本大震災を振り返り、災害時の被害について考えました。その後、身近で起きそうな災害について意見を出し合いました。災害について全体で確認した後、どのような備えをするべきかを一人一人が考えました。そして、それぞれの考えをグループで話し合い、学級全体で共有しました。グループの話し合いでは、災害に応じた備えが必要であることやどのような災害にも共通して必要なものがあるなど、多様な考えに触れることができました。普段の備えが大切であることを改めて確認することができました。また、「地域のために自分たちにもできることがある」「いざというときに誰かの助けになりたい」など、災害に対する意識の高まりが見られました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「多摩川と通学路の危険を知る」

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第1～2学年

国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所による、「①多摩川を知る」「②通学路の危険」「③ハザードマップの存在を知る」についての動画を視聴しました。身近な多摩川について理解を深め、過去に大雨で氾濫したことがあったと知りました。災害時にはどのような行動をすればよいかを知り、クイズ形式で視聴内容を復習しました。どの児童も楽しみながらクイズに取り組むことができました。

②の通学路の危険では近くを流れる野川について触れながら、大雨の時はどのような箇所が危険なのか、子どもたちだけでいる時は、どのような行動をとればよいのかをみんなで確認しました。

最後に、ハザードマップを活用しながら、身近な多摩川や野川の水害について理解を深めました。「自分たちだけで川に遊びに行かない」、「大雨の時には川の様子を見に行かない」など改めて確認することができました。

3-5 富士見台小学校

◆ 「命」の授業

「震災の経験から学ぶ」(共助に関する内容)

第6学年

災害が発生した時に設置される避難所について知り、自分たちにできることを話し合いました。避難所で気を付けること、避難所での仕事や役割、自分でできることとできないことを個人で考えた後に、ペアで話し合いをし、学年全体で共有しました。「感染症対策に気を付けながら生活をする」「困っている人に手を差し伸べる」「物資を運ぶ手伝いをする」「食事の支度をする」「小さい子の手伝いをする」など、多様な考えに触れ、避難所での生活について考えを深めることができました。最後に、映像資料を見て、実際にどのような動きが現場で見られたかについて確かめました。また、実際に避難所を運営した人の話から、「自分にできることを探す」「人に迷惑をかけない」「挨拶など日ごろからやっていることを実践する」等、いざというとき自分がどのように動くことができるか、動くべきかを確認しました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「水害から命を守るために」

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第5～6学年

動画視聴を通じて、日本における水害の歴史、調布市で起こった水害について学びました。水害の怖さを改めて感じました。水害防災への備えや対処方法、ハザードマップの見方について学ぶことができました。アメリカなどの海外に比べ、日本は災害が非常に多いこと、街の小さな川でも氾濫すれば大きな被害が発生することなど水の特性についても知ることができました。



3-6 滝坂小学校

◆ 「命」の授業

助け合って生きる ―自分ができること―

第6学年

医師として被災地に行った父からその様子を聞いた男の子が、自分にできることはないかと考え、行動しようとするお話を読みました。そしてそのお話をもとに、もし今、災害が起きたら自分にできることは何かをクラスで話し合いました。

「避難所でお年寄りや体の不自由な方の手助けをする」「小さな子の遊び相手になる」など、6年生でもできることはいろいろあると気づきました。

その後、できることを増やすために頭部や腕部にけがをした場合の応急処置の方法を学びました。いざというときのために、持ち出し袋に三角巾も入れておこうという意見も出て、全体の意識が高まりました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「多摩川が起こす水害と、命を守る行動」

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第3～6学年



動画視聴を通して、過去の多摩川の水害・地域の水害危険性・防災情報を知ることの重要性を学びました。堤防が決壊するまでの様子を見て、「堤防はもっと頑丈なものだと思っていた。」「水の力がこんなにもすごいなんて。」と驚き、自然の力の大きさを感じていました。また、水害時の避難を想定した実験を見て、「水の中を歩くのはもっと簡単だと甘く考えていた。小さな弟も避難することを考えると、少し早めに避難を開始しなければならないと思った。」などと自分事として考えている児童が多く見られました。

動画の視聴後は「安全に辿り着くことができる避難所までのルート」や「服装」などを家族とよく話し合っておくことが大切だとみんなで確認しました。

3-7 深大寺小学校

◆ 「命」の授業

避難所生活で私たちができること

第5学年

災害が発生したときの避難所生活で、周りの人のために自分たちができることを考えるための話し合いをしました。

高学年となった5年生は、「助けられる」立場から「助ける」立場になったこと、また、それは学校生活の中だけではなく、地域の中でも生かすことができる、と視点を広げていきました。東日本大震災や熊本地震での資料を基にしながら、避難所での仕事や役割を考え、自分たちが実際にできそうなことについて考えました。

また、地域の一員としての繋がりをもつために、日頃からあいさつをしたり、地域の方との触れ合いを大切にしたりするなど、小さな行動も大切であると考えました。そして、「共助」というキーワードで、お互いに助け合う心の和が、大切であることを確認しました。

◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「災害時に命を救うために」

講師 地域学校協働本部

第4学年

4年生が、地域学校協働本部の方々のご協力を得て、消火体験活動を行いました。実際に体験することを通して防災意識を高めることがねらいでした。

まず、協働本部の防災ボランティアの方から、消火器の仕組みや使い方についてのお話を聞きました。次に、校庭に模擬的な火を設置しました。ボランティアの方に、次々と消火器に水を補充していただき、全員が消火器体験をすることができました。子どもたちからは、水消火器で消火する活動から、「本当の火だったら、落ち着いてできるかな。」「実際に使ってみて、消火器の使い方がわかった。」などの感想が聞かれました。

災害や緊急時に互いに助け合う気持ちを高めるとともに、自分でも、災害時に「命を守るためにできることは何か。」と自分事として考えるきっかけとなる体験活動になりました。



3-8 上ノ原小学校

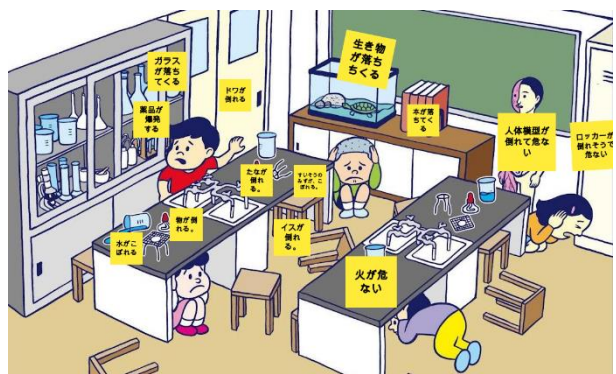
◆ 「命」の授業

自分の身を守るために ―緊急地震速報と地震が来た際の対処法―

第5学年

始めに、緊急地震速報の仕組みと特性について学びました。緊急地震速報を受けると非常に短い時間で地震波が到達する可能性があるため、素早く身を守るための判断や行動をする必要があることを知りました。

次に、「理科室」「音楽室」「通学路」の3つのグループに分かれて、具体的にどんなことに気を付けて行動すればよいか話し合いました。話し合いでは、タブレットを活用して意見を共有し、多様な考えに触れることができました。それぞれの場所に応じて気を付けなければならないことが違うため、日頃から防災を意識して様々な可能性を想定しておくことが大切であると振り返ることができました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「災害から命を守る方法」

講師 防災団体 やろうよ こどもぼうさい代表 山崎 光 氏

第3～6学年

3～6年生を対象に防災啓発講話として、防災士である山崎先生のお話を伺いました。感染症予防のため、6年生は体育館、3～5年生は教室からリモートで参加しました。

先生には家具の固定など必要な心構えや準備について動画やクイズを交えて、分かりやすく指導していただきました。今後、東京ではおよそ70%の確率で、大きな地震が起こる可能性があるとのこと。自分の命と、大切な家族の命を守るために、一人一人が自分事として捉えて行動していく必要があることを学びました。



3-9 石原小学校

◆ 「命」の授業

地震や火災が発生した時の避難経路を考えよう。

第4学年

始めに、地震が発生した時、どのように自分の身を守るか振り返りました。頭を守るため、倒れてこない場所、物が落ちてこない場所、ガラスなど割れているものがない場所にまず移動し、ダンゴムシのポーズをすることを確かめました。

次に、地震が起きた後にどんな被害が想定されるかを考えました。火事、土砂崩れ、建物が崩れる、停電、洪水、津波などが子どもたちから挙げられ、その中で、学校のクラブ活動の時間に地震直後に火災が発生した時の避難経路について考えました。

子どもたちは、クラブごとのグループに分かれ、学校の教室配置図を使いながら、地震発生後、どのように校庭へ避難するのがよいか話し合いました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

火事や地震、大雨や台風接近時等様々な災害に対する避難方法

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

全学年

学年の実態に応じて火事や地震、大雨や台風接近時等、様々な災害に対する避難方法について学びました。低学年向け講座では、火事や地震の災害について主に学びました。火事については以下のような内容でした。

小さな火でも何かについたら燃え広がる怖いものであることが説明され、火遊びはいけないことであるがまず話されました。

万が一、火事に気付いたら、早く逃げるのが大切であり、煙を吸わないように体を低くして次のことを守って避難することを以下の標語を使って説明していました。

「お」…おさない「は」…はしらない「し」…しゃべらない「も」…もどらない を守って避難する、ということです。(石原小学校では、おかしも)

また、自分の服に火がついてしまったら、水をかけたり、濡れタオルで叩き消したりする以外の方法が紹介されました。

- ・動き回ると火が大きくなるので動きを止める。「ぴたっ」
- ・燃えているところを地面に押し付けるように「ばたっ」
- ・最後にそのまま「ごろごろん」

もしも火事を見付けたら、大きな声ですぐに近くの大人に知らせ、消防署に連絡してもらうことも大切であることを教わりました。45分間のビデオ講話は、学びのある有意義な内容でした。



3-10 若葉小学校

◆ 「命」の授業

災害への備え 一家に置いておくとい防災グッズを考えようー

第4学年

災害が発生し、自分の命を守る行動を学んだあと、その後の生活に目を向けて必要となる物について授業を行いました。避難所に避難ができず、自宅で過ごさざるを得ないとき、どのようなものが必要となるのでしょうか。先生の話や画像、動画を通して、非常時の生活を実際にイメージしてみました。「水」「新聞紙」「食料」…子どもたちからたくさんの物が上がってきましたが、今日はその中から10種類、先生から提示されました。「カセットコンロは…。そうか、ガスが使えないし、家の中で火を起こすのは危ないよね。」「体ふきウエットタオル…。お湯が出なくなったらシャワーも浴びられないものね。」子どもたちは、一つ一つその必要性を理解することができたようです。災害発生時の避難訓練を毎月行い、安全な行動の仕方を考え訓練している子どもたちですが、今日はその後の避難や生活へと考えを広げることができました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

自分の命を守るために…

講師 若葉小学校 校長 生田目 将 氏

第4～6学年

タブレット端末を活用し、校長による防災啓発講話を行いました。子どもたちは、教室でスクリーンに映し出される画像を食い入るように見つめています。地震はいつ起きるか分かりません。実際の地震による被害を表した画像から、日頃の備えでその被害を最小限に抑える「減災」の必要性を感じることができたようです。地震は学校にいるときに起きるとは限らず、むしろ学校外の時の方が確率的に高いと言われていています。お風呂に入っているとき、登下校中の道路、電車に乗っているとき…、それぞれの場所や状況で行動の仕方が変わること気付いた子どもたち。自分の頭で考え、判断し、行動に結び付けていくことの大切さを実感することができたようです。

3-11 緑ヶ丘小学校

◆ 「命」の授業

防災に関する授業

第2学年

第2学年の授業では、地震が起きた時の対処の仕方や備えについての授業を行いました。家が壊れる、停電する、火事が起きるなど、地震に伴って起こることに備え、防災リュックがあるとよいことを確認し、リュックの中に入れるものを考えました。「自分だったらこれが必要だな」、「こんなものも、地震の時は役に立つんだ」と皆真剣に取り組んでいました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防火・防災に関する講話・訓練

講師 調布消防署員

第4～6学年

調布消防署（つつじヶ丘出張所）の職員を招き、防火・防災に関する実技を、講話を交えて実施しました。今回は、まちかど防災訓練車も来校しました。6年生児童が消火（放水）の体験を交互に行いました。防火の役割や初期消火の大切さを伺いながら、真剣に体験に臨みました。短い時間でしたが、よりよい訓練にしようとして励まし合っていて臨んでいたのが印象的でした。



3-12 染地小学校

◆ 「命」の授業

わたしの家の防災グッズ～何をもっていく？～

第3学年

災害が発生して避難するとき、どのようなものをどれだけ持って行けばよいか話し合いをしました。始めに一人で「自分の家族にぴったりの防災バッグ」を考え、友達と見せ合いました。友達の考えを聞くことで、多様な考えに触れ、自分や家族の環境に応じた防災グッズの必要性について考えることができました。この学習で考えた「防災バッグワークシート」は家に持ち帰り、家族で話し合いをしました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「VR防災体験車による震災体験」

講師 東京都消防庁職員 調布消防署員

第6学年

東京消防庁にご協力をいただき、VR防災体験車（愛称『VR BOSAI』）による防災体験を行いました。今回震度7が起きた時、自分の身の回りがどのような状況になるか体験をしました。体験した児童は「震度7の揺れの大きさが分かった。家具の点検や身を守る行動を確認しておきたいと思った。」「バーチャルリアリティの状態と分かっているけど、いざ地震が起きるとパニックになることが分かった。いつ起こるかわからないので普段から備えておこうと思った。」等、体験を通して地震に対する危機意識を高めることができました。



3-13 北ノ台小学校

◆ 「命」の授業

学級活動 ひなんのしかたを考えよう

第3学年

北ノ台小学校では、全校で、プログラミングの考え方を生かして、災害が起こった時に、どのような行動をとったらよいかを考える学習をしました。どんなものを持って行けばよいか、話し合いました。

写真は、3年生の学習の様子です。プログラミングといっても、タブレットを使って行うわけではありません。災害が起こった時の自身でとるべき行動を、プログラミングの考え方を生かして学びました。この後の避難訓練では、それぞれがとるべき行動を考えながら、学んだことを生かし取り組みました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「災害時に自分たちでできること」

講師 調布消防署員

第3～6学年

3年生以上の児童は、配信された防災に関する動画を見て、学びました。実際に消防署の方がお話ししている動画は、わかりやすく、実際に災害が起こった時に、自分がどう行動したらよいかをしっかりと理解をしました。

今年度は、まちかど防災訓練車に来ていただきました。6年生は、消火ホースからの放水を体験しました。まちかど防災訓練車の火事の絵に向かって、放水し、火が消えたランプがつけば成功です。ホースから出る水の勢いの強さにちょっとびっくりした6年生です。

別のコーナーでは、消火器による消火活動の訓練をしました。消火器は、見たことがあっても、ほとんどの人が使ったことはありません。使い方を知らずに、いざというときに何もできないのではなく、使い方を練習しておくことで、有事の際にも、子供でも、何かができるようになるとよいです。

火事を周りに知らせ、消火器を手に取り、火を消すことができるよう、指導をしていただきました。



3-14 多摩川小学校

◆ 「命」の授業

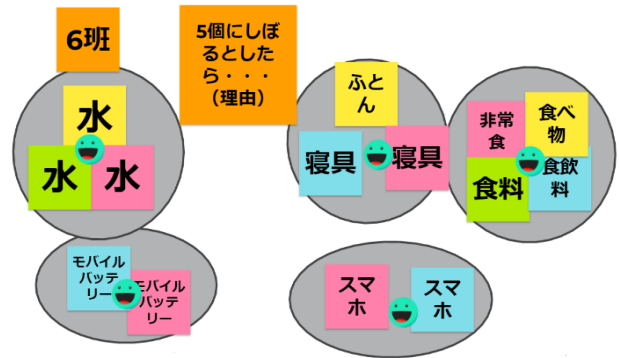
「防災バッグを作ろう」

第6学年

6年生は、「防災バッグを作ろう」という活動をしました。この学習では、一人一人が防災についての関心や意識を高めることがねらいでした。

まず、学校に設置されている防災備蓄倉庫に保管されている物資を考え、確認しました。その後、「自分だったら、防災バッグとして、どんな物を用意しておくか」という共通のテーマで個別に考えたり、タブレットを用いてグループ内で5個に絞るなど条件を設けたりすることで、何が本当にあれば困らないかについて意見交流をしました。

この活動を通し、自分自身の身を守る「自助」だけでなく、災害のときに互いに助け合う「共助」の気持ちを高めるとともに、自分ができることを増やそうという気持ちを高める良い機会となりました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防災講話

講師 調布消防署員

第4～5学年

調布消防署の方々が用意してくださった防災に関する動画「防災教育～地震の備えをしよう～」を実施しました。この学習では、一人一人が防災についての関心や意識を高めることがねらいでした。

過去の地震の写真を見たり、クイズにチャレンジしたりする活動を通し、地震の怖さを知り、自分の身の守り方について見直す良い機会となりました。体験した児童からは、「写真を見て、日本はたくさんの地震が起きていることを知り、とても怖かった」「地震が起きた時の行動を考えることができた」といった感想を聞くことができました。



3-15 杉森小学校

◆ 「命」の授業

あんぜんなひなんこうどうをみにつけよう

第2学年

まず通学路で地震が起こったらどうしたらいいか、ワークシートをもとに話し合いました。通学路にある塀や、電柱などいつも目にしているけれど、災害が起こった際には倒れてくる可能性があることを学びました。次に、地震から身を守る行動について学びました。体験しながら①頭を守ること、②揺れている間は動かないこと、③揺れがおさまったら、危ないところから早くはなれることを改めて学びました。その後、行った避難訓練で実践することができました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「多摩川がおこす水害と、命を守る行動」

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第4～6学年

国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員による、①多摩川の水害、②地域の水害の危険性、③防災情報を知る内容の講演を視聴しました。本校は、多摩川に近い立地であることから、映像を見た児童からは、「多摩川によく遊びに行くけど、雨が降ったら危険なんだ。」「家にある災害用のリュックサックの中身を確認しよう。」など、自分事としての感想がたくさん聞かれました。5年生では、理科の学習で行った「天気の変化」と関連させて、「天気予報をよく見て、早めの避難を心掛けたい。」とこれからの生活に生かす姿が見られました。

3-16 飛田給小学校

◆ 「命」の授業

東日本大震災後の人々の行動から ダイヤモンドランキングをつくろう

第5学年

東日本大震災の画像から、子どもたちは地震のおそろしさを感じながらも、救助のために一生懸命に活動をしている自衛隊やボランティアの方々の姿に見入っていました。また、大きな地震に遭ったときに必要なものを9つのカードに書き、同じグループの友達と順位付けをしてダイヤモンドランキングを作りました。グループの友達同士で自分の考えとその根拠を伝え合うなかで、「水や食料」、「お気に入りのもの」の他にも「思いやりや助け合う心」や「正確な情報」といった高学年らしい多様な考えがクラスに広がりました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防災講話(動画の視聴)

講師 調布消防署員

全学年

調布消防署の方々が用意してくださった防災動画を全校で視聴しました。子どもたちは、地震で傾いた家や津波に飲み込まれた街、震災で亡くなられた方の人数を見て、信じられないといった表情を浮かべていました。東日本大震災を経験していない児童や、覚えていない児童にとっても、地震や津波の恐ろしさがよく理解できたと思います。また動画の後半では、それぞれの発達段階に合った防災に関するクイズもあり、子どもたちにとっては学びの多い時間となりました。

いざという時に備えて、教わったことを毎月の避難訓練でも確認していきます。



3-17 柏野小学校

◆ 「命」の授業

自分の命を守る方法を知ろう ー洪水から自分の命を守ろうー

第4学年

4年生では、『自分の命を守る方法を知ろう』というテーマで授業を行いました。調布市のハザードマップから、川と柏野小学校の位置、周辺の浸水ランク、各種マークを確認しました。

「柏野小学校は水害で1mほど浸かってしまい、避難所にはならない」という事実を知った子どもたちからは「こわい。」「危険。」「という声が上がリ、自分事として考える様子が見られました。その上で、『こわいからこそどうすればいいか、自分にできることは何か』を一人一人が考え、隣同士で話し合い、学級全体で共有しました。自然災害を身近に捉え、具体的な行動を考え、意識を高めることができました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「子どもたちの命を救うために」

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第4～6学年

国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所の動画を活用し、「多摩川が起こす災害 命を守る行動」というテーマで動画視聴による防災講話を実施しました。講話を聴き、様々な動画を視聴しながら水害の怖さや事前の準備、避難の仕方を学びました。児童からは「ハザードマップの大切さを知った。家族にも伝えていきたい。」「日ごろから準備をしっかりとしていざというときに動けるようにしたい。」「堤防は絶対に崩れないわけではないので気を付けたい。」という声が上がりました。

防災への意識や自ら行動していきたいという思いが高まった時間になりました。

3-18 国領小学校

◆ 「命」の授業

防災ワークショップ ―三角巾の使い方―

第5学年

2時間目は、市の職員や地域の方々が避難所を設営している時間帯に、「東京防災」の冊子を使って避難所について学習しました。避難所の見学はできなかったものの、避難所のマナーなどについて学習しました。その後は三角巾を使って、腕に補助として装着してみました。自分たちでできる応急処置について実習し、理解を深めました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防災啓発講話

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第6学年

1時間目は、国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所の動画を視聴し、水害について学習しました。近隣の地域では2019年の台風19号で多摩川・根川での水害が発生しています。国領小学区では、多摩川より川幅の狭い野川における被害の想定が大きいことに児童は驚きを覚えました。大雨の時の排水など、家庭でもできる対策について学びました。



3-19 布田小学校

◆ 「命の授業」

あなたならどうする？～自分の身は自分で守る～

第3～6学年

子どもたちは、大震災時を想定して自分の身を守るための具体的な行動を考えました。

第3学年 家にどのような防災グッズを準備しておくのがよいかを考える

第4学年 家に1人有的时候に大きな地震が起きた時の自分の身の守り方考える

第5学年 避難所で自他を尊重しながら生活するために必要なことを考える

第6学年 バスや電車を使った外出先で大きな地震が起きた時の行動を考える

子どもたちは、それぞれの場面での具体的な行動を考えることを通し、「自分の身は自分で守る」ことの大切さを学ぶことができました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「多摩川が起こす水害と、命を守る行動」

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

第3～6学年

震災は、いつやってくるかわかりません。すべての子どもにとって、災害に備えるための心構えをもつことは、自他の命を守るうえで大変重要なことです。子どもたちが「大人がなぜ、避難訓練を計画・実施しているのか、自分たちはどんな心構えをもっていけばいいのか。」分かるように、布田小学校では防災教育に取り組んでいます。

布田小学校区域は、台風・豪雨による多摩川の氾濫とそれに伴う水害が懸念される地域です。そこで、今年度は水害を知り、水害に備えて命を守る行動を、国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所提供の動画教材を活用して学習しました。子どもたちは、震災だけでなく水害からも、「自分の身は自分で守る」という心構えをもち、その後の防災の授業・避難訓練に臨みました。



3-20 調和小学校

◆ 「命」の授業

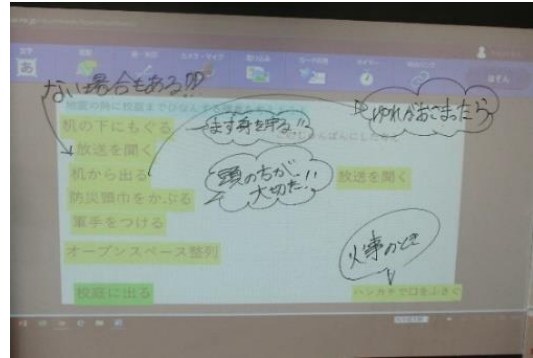
地震の時の避難の順番を考えよう 一命を守る アンプラグド授業一

第4学年

教室で地震が起きた時に、どのように校庭まで避難すればいいかを考え、話し合いました。

「どのような行動が取れるか」という項目を学級で出し合い、タブレットを活用して、その順番を一人一人がプログラムしました。「まず放送をきくんだよ。」「机の下にもぐるのが先じゃない?」と、プログラムを組む過程を通して、一つ一つの行動の意味を考えることができました。

また、その後行われた避難訓練では、プログラムした順番どおりに動き、正しい避難の仕方を実感することができました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

「子供たちの命を救うために～そなえることの大切さ～」

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

調布消防署つつじが丘出張所署員

第3～6学年

防災啓発講話として国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所が提供の動画を視聴しました。水害の恐ろしさを再認識するとともに、事前の備え等についても学びました。その後、調布消防署の職員を招き、全校児童の一斉避難訓練の様子を観察していただき、避難後、訓練の様子について「**お**さない・**か**けない・**し**ゃべらない・**も**どらない」にふれた内容の講話と、東日本大震災当日の街の様子や、被災地の様子等をお話ししていただきました。訓練について児童が私語を慎み集中して訓練に取り組んでいる様子をほめていただいたあと、東日本大震災、阪神淡路大震災等の災害援助に赴かれた体験の話をいただきました。どの児童も真剣に耳を傾け食い入るように話を聞いている姿が印象的でした。また、後日、児童に講話の感想を聞いたところ「経験したことがない大震災の話を聞き、災害にそなえての準備が必要だと思った」「学校だけではなく、家でも準備をするとよいと思った」等の感想が聞かれました。調布消防署つつじが丘出張所署員の方による講話は、児童にも「備えること」の大切さを感じ取らせることができました。

3-21 調布中学校

◆ 「命」の授業

命の尊さ、自他の生命を尊重する(道徳)

全学年

本年度は、「命の尊さ、自他の生命を尊重する」の内容で学年毎に計画し、道徳の授業をしました。1学年は「ひまわり」、東日本大震災で家族全員を奪われた陸上自衛隊の方の話を通して命の尊さを、2学年は「命が生まれるその時に」、詩やフォトグラファーの方の思いを通して「生きている」や「生きる」ことの尊さについて、3学年は「あの日 生まれた命」、震災という非日常の中で、我が子の誕生と祖母の死を同日に経験した母親の心の変化を通して「かけがえない命」について、各学年「命」について考えました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防災啓発講演会

講師 調布警察署員

全学年

調布警察署の職員の方を招き、実際の場面でも落ち着いて行動できるように、集団行動時、単独行動時において危険を予知、回避し、自他ともに生命の安全の確保ができる能力を養うことを目標に「防災に関する講話」をしていただきました。各教室でMeetを使用し、地震のDVDを用いて各場面での行動について詳しく教えていただきました。講話の後には、地震発生を想定とした避難訓練を実施し、全校生徒が校庭に避難、調布消防署の職員の方から講評をいただきました。



3-22 神代中学校

◆ 「命」の授業

命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)

全学年

学年ごとに東日本大震災の日に失われた命と新たに誕生した命、また臓器移植について、教科書を題材に授業を展開しました。

当日までに東日本大震災時に自分がどこにいてどんなことをしていたのかを調べました。命の重さや尊さ、また失われてしまった命から繋がる命や希望などをグループで話し合い、発表をしました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防火防災に関する講話・訓練

講師 調布消防署員

全学年

調布消防署警防課の方のお話をビデオで視聴後、避難訓練を行いました。実際に起きた地震の被害様子や家庭でできる防災の工夫、避難するときの注意することなどについてお話をしてくださいました。震災の被害映像には自然の威力に怖さを感じる人もいたようでした。「もしも」に備えての防災用品を準備したり、家具を点検したり、家族で話し合う大切さを考えた1日となりました。



3-23 第三中学校

◆ 「命」の授業

命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)

全学年

学年ごとに、それぞれ「命」をテーマに授業を展開しました。1学年は道徳の教科書より「ひまわり」を教材として班単位で意見を交換し「命の尊さ」について学びを深めました。ワークシートの感想には「家族の大切さを再認識できた」「当たり前の日常に幸せを感じた」「自分は今とても幸せなのだ」「自分の命を、他の命と同じように大切にしたい」「命は何よりも尊い」「一日一日を大切にしたい」などの意見が挙がりました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防火防災に関する講話

講師 防衛省 自衛隊東京地方協力本部 府中分駐所長 中野 智文 氏

全学年

自衛隊より講師の方をお招きし災害時における安全対処についてお話をして頂きました。講話を傾聴するだけでなく地震発生時にどのような行動を取ればよいのかをクイズ形式で展開していただき、生徒たちも意欲的に取り組む姿が見受けられました。また、地震発生時に落下物から身を守る為の「ゴブリンポーズ」も教えていただき、最前列で受講していた生徒たちが実際にデモンストレーションを行いました。

生徒たちからは「災害時に正しいと思っていた行動が実は間違いだった」、
「『自助・共助・公助』が大切である」などの感想が出ました。



3-24 第四中学校

◆ 「命」の授業

命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)

全学年

各学年とも、震災を題材にした教材を用いて命の尊さ、大切さを考えました。

1年生「ひまわり」では、東日本大震災で家族を失った方が、「はるかひまわり」を育てることをきっかけに語り部として活動している話を通して、命の大切さを考えました。

2年生「命が生まれるそのときに」では、震災を経験し「死」を身近に感じたフォトグラファーが、出産を撮ることをライフワークにしている話から、「生きる」ことについて考えました。

3年生「あの日 生まれた命」では、震災の日生まれた子ども達へ椅子を送る『君の椅子』プロジェクトで椅子を受け取った母子の話から、「命」への感謝について真剣に考えました。

映像資料やICT機器を活用しながら、教師からの発問を基に、生徒たちは生きることの大切さや命の重さの意見についてグループで交換し合い、自分の考えを深めることができました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

多摩川が起こす水害に、地域で備える

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

全学年

多摩川の治水や台風・水害時の行動について、動画視聴で講話を聞きました。生徒にとって身近な存在の多摩川での、昭和49年の狛江の堤防決壊や令和元年の東日本台風の被害の様子などについても紹介されました。調布は実際に被害の出た地域でもあり、真剣に講話を聞いていました。また避難訓練では、生徒に重症者や行方不明者の役を割り当て、実際に被害にあったことを想定して実施しました。全員が真剣に取り組み、防災意識の向上につながる一日になりました。



3-25 第五中学校

◆ 「命」の授業

命の尊さ、大切さを考える授業(道徳)

全学年

○1年生 『ひまわり』

東日本大震災で家族を失った作者がひまわりを育てる中で、家族を失った悲しみから立ち上がり、やがて語り部として生命の尊さについて伝える活動を始めた。作者の心情により添うことで語り部としてどんなことを伝えたいかということを生徒に考えさせた。

○2年生 『命が生まれるその時に』

出産をテーマに写真を撮るフォトグラファーの経験と体験から、生徒に震災による生きているのが当たり前ではない場面から、生命の尊さについて理解させ、かけがえのない生命の尊さを深く見つめ考えさせた。

○3年生 『あの日 生まれた命』

東日本大震災の中、我が子の誕生と祖母の死を同時に経験し、子どもの誕生を率直に喜べない母親の元に一脚の椅子が送られた。その椅子に込められた思いから母親の心が少しずつ変化していく。3月11日に起こった生と死、それを取り巻く家族と「君の椅子プロジェクト」の人たちの思いを考えることで、命のかけがえのなさ、そしていかにして命を大切にしていくかについて生徒に考えさせた。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防火防災に関する講話・訓練

講師 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員

全学年

国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所の方に、多摩川の治水・水害時の行動について講話をしていただいた。視聴した動画では、令和元年東日本台風の被害の様子などについても解説していただいた。調布は被害の出た地域でもあるので、生徒にとっても身近な問題としてとらえることができた。「東京防災」マイ・タイムラインを使って、家族で話し合うことの大切さにも触れていただき、震災だけではなく水害という視点からも防災意識の向上につながった。



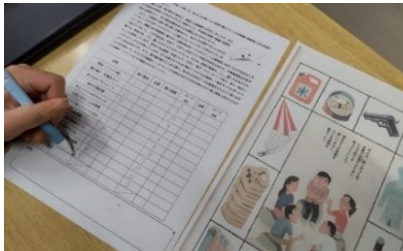
3-26 第六中学校

◆ 「命」の授業

「命の大切さ」について考えよう（道徳）

全学年

第1学年では、東日本大震災で家族を亡くした人の体験をもとに、生命尊重をねらいとして考えを深めました。第2学年では、極限状況を想定し生命を守る、よりよい方法やその根拠を明らかにしながらグループで意見交換をしました。第3学年では、東日本大震災の7年後に宮城県南三陸町を訪れた教員の体験をもとに、災害発生時に自分は何ができるかについてグループで意見交換をしました。こうした授業をとおして、生徒からは「命のかけがえのなさに気付いた」「自分や身の回りの人々を守るため中学生としてできる行動を考えたい」などの率直な感想がありました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

身体防護訓練「起震車」・ 防災啓発動画(全学年)

講師 調布消防署員

全学年

～身体防護訓練（起震車）を行った代表生徒より全校生徒に向けて～

とても怖かったということが一番の感想です。訓練だとわかっていても震度7は初めての体験で、揺れの大きさにびっくりしました。

2011年の東日本大震災ではこの強い揺れが3分以上続きました。長い時間の揺れの影響で、家の中の家具も次第に崩れ、安全なはずの家自体が崩れました。日本は災害の多い国です。いつ起こるかかわからない災害に対して私たちは準備しなければなりません。しっかりと訓練し、冷静に行動できる力を身につけ、自分の命を守るとともに、中学生の私たちは家族や地域の方を助ける人になっていかなければなりません。今日この後、正しい知識を学び、全校生徒で緊張感をもって避難訓練を行いたいと思います。

この後、各クラスで動画視聴・リモート学習を行い、その学習を生かして避難訓練を行いました。



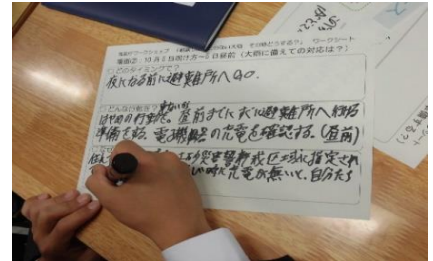
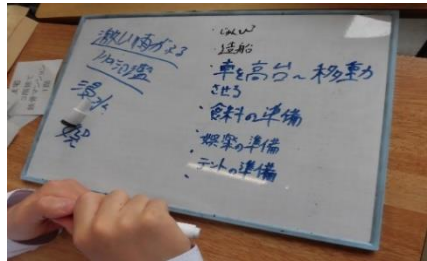
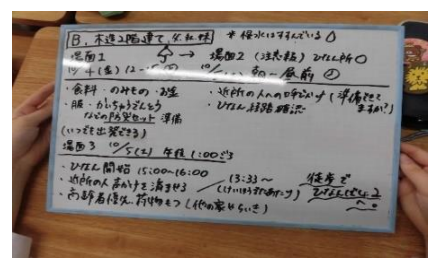
3-27 第七中学校

◆ 「命」の授業

命を守る行動とは？最善を尽くすためにできること(道徳)

全学年

第3学年では、実際に自分たちの住む家が水害にあった時にどのように行動し、命を守るのかといったワークショップを実施しました。5名ほどの班をつくり、班ごとに「家の構造」「家の場所」「家族構成」といったカードをランダムに引き、地形図で自分たちの家の状況を確認しました。その後、時間の経過とともにメディアからの情報が入るという設定で、場面ごとに話し合いの時間を設け、状況や今後の危険性を話し合い、行動を決め、他の班と共有をしました。生徒たちはメディアからの情報や地図を冷静に見て、「今どのような行動をすべきか」といったことを真剣に考えていました。前時の防災学習講話で学んだことを活かしながら、自分の命はもちろんのこと、大切な家族の命を守る大切さを、活動を通して改めて理解していました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

防火防災に関する講話

講師 調布消防署員

全学年

1校時目には調布消防署による防災啓発講話の動画を視聴しました。震災の被害や津波の様子を見て、生徒たちも震災の恐ろしさが良く理解できた様子でした。

その後、調布消防署の職員を招き、避難訓練を行い、その講評をしていただきました。速やかに安全な場所へ避難することをはじめ、放送や教員による指示に注意して耳を傾けて行動できているので、今後も続けていくようにお言葉をいただきました。

また、第七中が計画の段階で協議し取り組んだ「実際に想定した訓練」について評価をいただきました。具体的には、教室で一次避難をした後、グラウンドへ避難する際に、どうしても習慣で背の順等で整列をしてしまうため、「順番は関係なく、すぐに整列して校舎外へ出ることを優先する」といった当たり前のことを徹底させました。加えて、グラウンドへ避難した際も、学年順やクラス順で並ぶ習慣があるが、有事の際は、「綺麗に並ぶことよりも、いかに安全に素早く避難できるのか」を優先させるため、誘導係の教員を配置し、グラウンドへ到着したクラスから、整列し、点呼を開始、本部へ報告するといった実践を行いました。

こうした当たり前のことを徹底することの大切さを調布消防署の方から評価いただきました。

3-28 第八中学校

◆ 「命」の授業

「天を恨まず」=支え合って生きる私たち=(道徳)

全学年

3年生は、東日本大震災を経験し、中学の卒業式で卒業生代表として「門出の言葉」を行った生徒の文章を資料とし、その当時の動画を見ながら道徳の授業を行いました。「天を恨まず」、この言葉は、「門出の言葉」にあった一節です。

東日本大震災という未曾有の災害により、多くの尊い命が失われました。この資料で、今生きていることへの感謝、生命の尊さに気付き、自他の生命を尊重する心を育てていきたいと考えました。

生徒には、大きな災害が起き、生活やかけがえのない人々を失った時、一人の人間としてどのようにそれを受け止めるか。また、どのように生きていけばよいのかを考えさせました。今が、かけがえのない大切なときであることを理解してほしいです。



1学年は、「東日本大震災から10年 被災地の写真スタジオで働いていた人の経験を描いた漫画が教えてくれること」、2学年は、「3.11を忘れない」の各資料を使って生命尊重について考えました。



◆ 児童・生徒への啓発講話(活動・体験)

東日本大震災から変わった意識。これからもありえること。

講師 石巻市防災士協議会 武井 友佑 氏

全学年

今回は、調布市出身で、東日本大震災後に石巻で防災士という資格を持ち、復興に尽力した武井友佑さんを講師にお迎えして防災講話を行いました。

過去の災害から学んだこととして、正しい情報と誤情報を見極めるために、聞いた情報を自分の目で見て真実を知ることの重要性をお話いただきました。そして自分が流した情報が人の命を奪うかもしれないという責任を考えて発信するべきだともありました。さらに地震だけでなく、いつ来るかわからない様々な災害を想定し、東京でも起こりうる災害に対しての話がありました。中学生ができることとして、自分の家の配置を考えることや災害時に持ち出すものを整えておくこと、さらに自分の住んでいる街の土地の特徴を考えて備えることの大切さなども教えていただきました。



最後に、自分の命を守るために今何をすべきかを考えて今日から行動してみよう。次の災害が起きるのはあなたの目の前かもしれないと話され、生徒の災害に対する意識を高めてくれました。

〔資料〕

令和4年度 各学校実施内容(1～3校時)



消防署によるVR防災体験車による震災体験（染地小学校）

令和4年度 各学校実施内容(1～3校時)

各学校の実施内容を一覧でまとめています。

令和4年度、新型コロナウイルス感染症対策のため、保護者・地域の方への公開を中止しました。

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
第一小学校	<p>通常授業 1～5年 ひまわり学級 @各教室</p> <p>防災啓発講話 起震車体験 6年 @正門付近</p>	<p>「命」の授業 1～6年 ひまわり学級 @各教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長</p>
第二小学校	<p>通常授業 1～3年 @各教室</p> <p>防災啓発講話 講師：調布消防署員 4～6年 @各教室 (動画視聴)</p>	<p>「命」の授業 1～6年 @各教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長，調布消防署員</p>
第三小学校	<p>通常授業 1～2年 @各教室</p> <p>防災啓発講話 テーマ：「自分の命は自分で守ろう！そして、身近な人を助けよう！」 講師：山中義之氏 (警視庁警備部 防災対策課 地域防災係長) 3～6年 @体育館</p>	<p>「命」の授業 1～6年 @各教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長</p>

学校名	1 校時目	2 校時目	3 校時目
八雲台小学校	防災啓発講話 講師：国土交通省関東 地方整備局 京浜河川事務所職員 1～6年 @各教室 （動画視聴）	「命」の授業 1～6年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長
富士見台小学校	通常授業 1～3年 かしわ @各教室 起震車体験 4年 @校庭 （正門付近） 防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 5～6年 @各教室 （動画視聴）	「命」の授業 かしわ 1～6年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長
滝坂小学校	通常授業 1～2年 わかくさ学級 @各教室 防災啓発講話 講師：国土交通省関東 地方整備局 京浜河川事務所職員 3～6年 @各教室 （動画視聴）	「命」の授業 1～6年， わかくさ学級 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長，調布消防署員

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
深大寺小学校	<p>「防災に関する授業」 (防災ノート活用) 1, 2, 3, 5, 6年 @各教室</p> <p>「消火体験活動」 (地域学校協働本部) 4年 @校庭</p>	<p>「命」の授業 1～6年 @各教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長</p>
上ノ原小学校	<p>通常授業 1～2年 @各教室</p> <p>防災啓発講話 テーマ：「災害から命を守る方法」 講師：山崎 光 氏 (防災団体 やろうよ こどもぼうさい 代表) 3～5年 @各教室 (リモート) 6年 @体育館</p>	<p>「命」の授業 1～6年 @各教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長</p>
石原小学校	<p>防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1～6年 @各教室 (動画視聴)</p>	<p>「命」の授業 1～6年 @各教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長, 調布消防署員</p>

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
若葉小学校	<p>「命」の授業 1～3年 @各教室</p> <p>防災啓発講話 講師：生田目 将 (本校 校長) 4～6年 @各教室 (Meet)</p>	<p>防災啓発講話 講師：生田目 将 (本校 校長) 1～3年 @各教室 (Meet)</p> <p>「命」の授業 4～6年 @各教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長，調布消防署員</p>
緑ヶ丘小学校	<p>通常授業 1～3年 @各教室</p> <p>防災啓発講話 講師：調布消防署員 4～5年 @各教室 (動画視聴)</p> <p>消火器訓練 講師：調布消防署員 6年 @校庭</p>	<p>「命」の授業 1～6年 @各教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長，調布消防署員</p>
染地小学校	<p>通常授業 1～2年 @各教室</p> <p>防災啓発講話 講師：調布消防署員 3～5年 @各教室 (動画視聴)</p> <p>「命」の授業 6年 @各教室</p>	<p>「命」の授業 1～5年 @各教室</p> <p>VR防災体験車による 震災体験 講師：調布消防署員 4～6年 たけのこ学級 4～6年 @校庭</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長，調布消防署員</p>

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
北ノ台小学校	<p>通常授業 1～2年 @各教室</p> <p>防災啓発講話 講師：調布消防署員 3～6年 @各教室 (動画視聴)</p> <p>まちかど防災車 放水体験 講師：調布消防署員 6年 @校庭</p>	<p>「命」の授業 1～6年 @各教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長，調布消防署員</p>
多摩川小学校	<p>通常授業 1～3年 @各教室</p> <p>防災啓発講話 講師：調布消防署員 4～6年 @各教室 (動画視聴)</p>	<p>「命」の授業 1～6年 @各教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長</p>
杉森小学校	<p>通常授業 1～3年 @各教室</p> <p>防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 4～6年 @各教室 (動画視聴)</p>	<p>「命」の授業 1～6年 @各教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長</p>

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
飛田給小学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～6年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～6年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長
柏野小学校	通常授業 1～3年 @各教室 「命」の授業 4～6年 @各教室	「命」の授業 1～3年 @各教室 防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 4～6年 @各教室 （動画視聴）	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長
国領小学校	通常授業 1～4年 @各教室 防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 5～6年 @各教室 （動画視聴）	「命」の授業 1～6年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長，調布消防署員

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
布田小学校	<p>通常授業 1～2年 @各教室</p> <p>防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 3～6年 @各教室 (動画視聴)</p>	<p>「命」の授業 1～6年 @各教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長</p>
調和小学校	<p>通常授業 1～2年 @各教室</p> <p>防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 3～6年 @各教室 (動画視聴)</p>	<p>「命」の授業 1～6年 @各教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長，調布消防署員</p>
調布中学校	<p>防災啓発講話 講師：調布警察署員 1～3年 @各教室 (Meet)</p>	<p>「命」の授業 1～3年 @各教室</p>	<p>安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長，調布消防署員</p>

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
神代中学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～3年 @各教室 (動画視聴)	「命」の授業 1～3年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長，調布消防署員
第三中学校	防災啓発講話 テーマ：災害について 講師：防衛省 自衛隊東京地方協力本部 府中分駐所長 中野 智文氏 1～3年 @体育館	「命」の授業 1～3年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長，調布消防署員
第四中学校	防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1～3年 @各教室 (動画視聴)	「命」の授業 1～3年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長
第五中学校	防災啓発講話 講師：国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所職員 1～3年 @各教室 (動画視聴)	「命」の授業 1～3年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長，調布消防署員
第六中学校	「命」の授業 1～3年 @各教室	代表生徒 起震車体験 各教室へ Meet 配信 防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～3年 @各教室 (動画視聴) リモート防災教育 東京消防庁 HP 1～3年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長，調布消防署員

学校名	1校時目	2校時目	3校時目
第七中学校	防災啓発講話 講師：調布消防署員 1～3年 @各教室（動画視聴）	「命」の授業 1～3年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長，調布消防署員
第八中学校	防災啓発講話 テーマ：東日本大震災から変わった意識。これからもありえること。 講師：武井友佑氏 （石巻市防災士協議会） 1～3年 @体育館	「命」の授業 1～3年 @各教室	安全指導 発災想定・避難訓練 講評：校長，調布消防署員

刊行物番号

2022-89

**令和4年度
調布市防災教育の日 実施結果報告書**

発行日 令和4年8月
発行 調布市教育委員会
編集 調布市教育委員会教育部教育総務課
〒182-0026 調布市小島町2-36-1
電話 042-481-7465
印刷 庁内印刷